

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日（〇） 第〇校時

授業者 教諭 〇〇 〇〇

1 主題名 自信をもって正しいことを 内容項目 [A 善悪の判断、自律、自由と責任]

2 ねらい 自分が正しいと思うことは、自信を持って行おうとする態度を養う。

教材名 「SL公園で」（出典：「新しい道徳3」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、内容項目A「正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする態度を養う。」をねらいとしている。人として行ってよいことかどうかを判断し、人に左右されることなく自ら正しいと信じることに従ってその判断に基づいて行動することは、価値観の多様な現代社会を主体的に生きる基盤となる道徳性である。しかしながら、人間には弱い部分もあり、正しいことと理解していても行動にうつせなかつたり人に流されたりしてしまう。人間にはそのような弱い部分があることにも触れながら、「正しくないことはしない」、「正しくないことを人に勧めない」に留まらず、人から誘われたときに自信をもって断ったり、自分が「正しくないことをしている」と思ったら自信をもって止めたりできる態度を養っていききたい。そして、いつでもどこでも誰にでも「正しいことは正しい。正しくないことは正しくない。」と自信をもって言えるような態度を育てることが大切である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

学校の道徳アンケートでは楽しいと思っている児童が多い。理由としては「物語が楽しい」「話し合いや考えることが好きだから」などである。しかし、ためにならない理由として「実際には対処できないから」という意見もみられた。児童同士が交流する場をつくることで話し合いをさらに深め、振り返りの時間を多くとることで自分事として考えを深めさせていくことが大切である。

1学期には「二つの声」で善悪の判断について学習した。本学級の児童は、友達が正しくないことをしていると注意できる児童が多いが、注意の仕方トラブルになったり、「ちょっとだけなら」と周りに流されてしまったり、正しいと分かっているにもかかわらず自信がなく言えなかつたりする場面も見られる。正しくないことをしている友達を自分で止めるのではなく、担任に報告して解決を求めようとする児童も多い。これらのことを考えると、学級の児童は、判断したことを実生活に結び付けていこうとする意欲・態度を育てていくことが必要であると考えられる。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、SL 機関車が置いてある公園で遊んだときの話である。友達のつよしに誘われても一人柵のあるSL 機関車に決して登らなかった主人公のしんごが、通りかかった女の人に自分も注意され、帰り道に考え込む教材である。友達との遊びでの出来事であり、身近で自分事としても考えやすい教材である。教材の活用にあたっては、①みんなと遊んでいる場面 ②いけないことと分かっている

ながらも登るみんなを止められなかった場面③女の人の言葉をきっかけに帰り道に考える場面の主人公の気持ちを考えることで、児童の多様な意見を交流させながら、自分がやらないだけでなく相手を止めることまで考えられればよかったことに気付かせ、ねらいとする道徳的価値に迫っていきたい。

4 学校研究主題

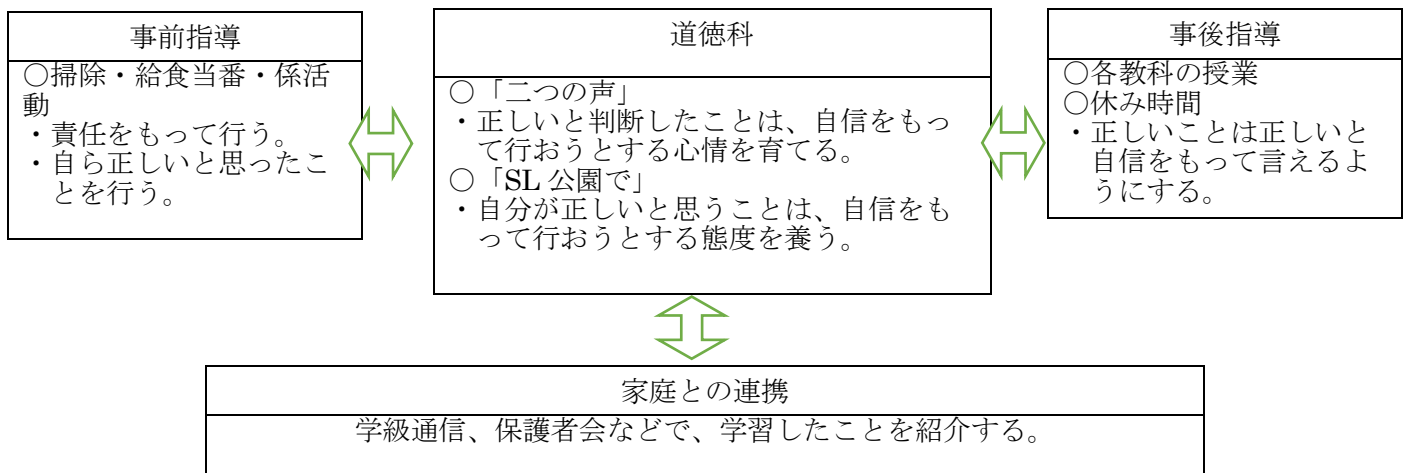
「自己のよさを知り、お互いを認め合える児童の育成」～道徳性を養う指導法の工夫～

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 アンケートから具体的な場面を提示する。 「よくないことに誘われたり、よくないことを見たりしたことはありますか。」	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んではいけない所に入ろうと誘われた。 ・持ってきてはいけない物を持っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を思い起こす。本時のねらいとする道徳的価値への関心が高まるようにする。
展開	2 教材「SL公園で」の範読を聞き、しんごの心の変化を中心に話し合う。 (1) みんなで遊んでいる時、しんごはどんな気持ちだったでしょう。 (2) つよしから誘われた時、しんごはどんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に楽しい ・いつまでも遊んでいたい <p>言う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あぶない。ケガをする。 ・さくがあるのに。 <p>言わない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが登っているからぼく一人で言うのは ・みんなから嫌われるかも 	<ul style="list-style-type: none"> ・しんごの気持ちになって範読が聞けるような言葉がけをする。 ・みんなと一緒にいることの楽しさに共感させる。 ・SLに登ったつよしに引きずられるみんなの中で、登らないでいるしんごが考えていることを多様に考えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>仮説1 (スキルのこと) 自分に置き換え見方考え方を整理しまとめることができれば、自分の思いを伝えることができる子になるだろう。</p> <p>手立て ・心情円盤を使って、意思表示をする。</p> </div> <p>☆しんごの心の内を話し合うことを通して、しんごの立場になって自分の考えを表出している。 (話し合いの様子・発言)</p>

	(3) 帰り道、しんごはどんなことを考えていたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして言えなかったのかな。 ・ みんなを止めればよかった。 ・ 自分がやらないだけではいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がいけないことをやらないだけでなく、相手を止められればよかったことに気づけるようにしていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>仮説2（意図的な場） 意図的に、お互いの考えを表現できる場をつくることができれば、相手の考えを受け入れる子になるだろう。</p> <p>手立て ・ ワークシートに書かせ、タブレットで共有する。</p> </div>
	3 今までの自分を振り返り、「これから自分はこうしたい」と思うことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間違っていることははっきり言ってあげる。 ・ 勇気をもって言う。 ・ 自信をもって正しいことをつたえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材から離れ、自分の日常生活に目が向けられるようにする。 <p>☆自分が正しいと思ったことは、自信をもって行おうと考えている。 (道徳ノート・発言)</p>
終末	4 教師の説話をきく		<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師自身が子どもの時に、友達からしてはいけない遊びに誘われた時のことを話す。

6 他の教育活動との関係



7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ 主人公の心の内を話し合うことを通して、主人公の立場になって自分の考えを表出している。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・ 自分が正しいと思ったことは、自信をもって行おうと考えている。

8 板書計画

